

市民と議員で新たな地域を創り出す

埼玉政経セミナー 平成30年度事業第1弾 特別講座

市民が設定する市議選挙の争点とは

―来年4月実施の統一地方選挙に向けて―

日時 10月26日(金) 午後6時30分

場所 越谷市市民活動支援センター5階



越谷市弥生町16番1号 TEL048-969-2750

講師 廣瀬克哉 法政大学教授 /自治体議会改革フォーラム代表

コメンテーター ①山中啓之・松戸市議会議員(3期。本年11月に市議選挙)
②吉田理子・一般社団法人S-net サポートーズ代表理事

定員 80人(先着順)(開場午後6時15分)

受講料 1000円(会員は500円)

先般の自民党総裁選では、石破氏が予想を上回る得票数254票を超えたことは、安倍一強体制に対する反発に留まらず(石破陣営でも250票超えは想定外)、地方経済の疲弊や社会の新たな貧困と格差が中央の思惑(永田町、霞が関、丸の内、虎の門)とは全く別の次元で進行していること証明しました。

特に地方と中央の格差を始め、生活のあらゆる領域で、これまでにはない深刻な事態が進行しているにも拘わらず、打ち上げ花火の様に政治スローガンだけが先行し、その決定過程はオープンにされず(森友、加計問題等)一部の専門家集団によって決定されている現実に、このままでは地域はやっていけないとの皮膚感覚が広がっているからです。

そのため政治的に言えば、巨大与党の中に野党が顕在化し、しかも地方によって支えられている構造が可視化されたことは大きなことです。つまり5年間にわたるアベノミクスを検証する政治的な団体として石破、竹下グループと立憲民主党、国民民主党の3つの政治団体があり、さらに常識的な地方議員及び首長の存在があるとの構図です。

これらが有機的につながりながら、政権交代はもとより次の時代のステージを形成していくスタートになりました。その意味で地方議員と市民の関係性をどのようにしていくのか、来年の統一地方選挙での取り組みは大きな意味を持つこととなります。

そこで、来年の統一地方選挙は、ローカルマニフェスト運動をさらに発展させると同時に、審判をする市民はどのような判断材料や視点を持つべきなのか、廣瀬先生からの講演と会場参加者の市民の皆さんと話し合います。

主催 埼玉政経セミナー(代表 白川秀嗣 越谷市議会議員)

問い合わせ・連絡先: 「埼玉政経セミナー」事務局 三輪辰宏 電話 090-3917-0249

■ 今後の埼玉政経セミナー特別講座の案内

開催内容



- 第1 講義 10月26日 市民が設定する市議選挙の争点とは
法政大学教授 廣瀬克哉
- 第2 講義 12月 立憲民主主義で語る、地域の共通課題（仮題）
県内市長（予定）
- 第3 講義 2月 市会議員・公約を選ぶ、市民の判断基準（仮題）
市民運動家（予定）
- 第4 講義 5月 我ら統一地方選挙を闘って（仮題）
市議会議員（予定）
- 第5 講義 6月 参議院選挙・埼玉県知事選挙に臨む、市民の責任（仮題）
学者（予定）

■ 会場案内図

越谷市市民活動支援センター5階会議室
越谷市弥生町16番1号 越谷ツインシティ Bシティ5階
(越谷駅東口から徒歩1分) TEL: 048-969-2750

